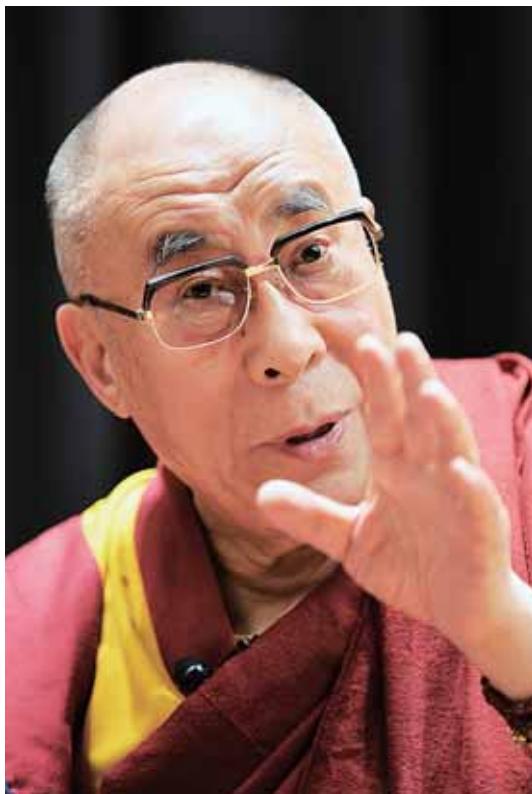
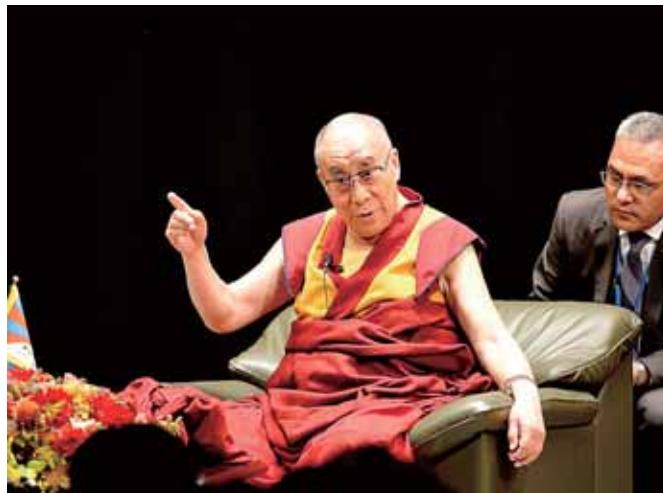


ダライ・ラマ法王来校



慈愛の心を熱く説くダライ・ラマ法王14世



「空」について語るダライ・ラマ法王14世

宗教と科学を語る

ヨークを交えながら2時
間近く熱弁を振るい、会
場からの質問に答えた。
以下、法王の発言の要
旨を再録――。

小宮一仁学長が「今日のわ話は『世界文化に技術で貢献する』という美学の建学の精神にも沿るものだと思う」とあいさつした後、櫻井さんとともに舞台中央に進んだ注王は年齢を感じさせない長いひらき音ごと、手

【慈悲深い世界をつくるために】20世紀には科学が急速に発達したが、その技術が戦争に使われた。“暴力の世紀”でも書いた。日本の兄弟姉妹に対する核兵器が使用された。この過去をわれわれ

いる。その責任を負つて
いるのは主に若者だ。

愛に満ちた世紀へ 「責任負う若者たち」



ダライ・ラマ法王14世とともに。右
はピーター・ヤーロウさん、左から
小宮学長、櫻井さん、瀬豆能理事長



ロボットの操作について説明を聞く

さらに会場を改めては王一行は、未来ロボット技術研究センター（f R O）の櫻壱・式號などロボットを見学。また惑星探査研究センター（P E R C）の松井孝典氏長が鉄隕石で造ったと云う貴重な力を興味深々に手にとり眺めていた。

からこそ憤怒や嫌悪や憎しみ、過度に自己中心的な思考をもつて技術を使えば、人間を不幸に陥れる道具となる。この世界を恐怖にさらす力をもっているのは人間だけだ。

しかし、そもそもわれわれの中には慈悲・慈愛の種がまかれている。その種を生かし、成長させて人類全体をひとつのが族ととらえることが大切だ。あらゆる宗教が、敵であっても慈悲の心で接するように教えていく。

【多くの科学者が宗教家との対話を望む理由】

仏教には、「自らの力だ

けで存在しているものはこの世にはない」という「空」の教説がある。物質的な存在に一切の実体性はない、すなわち「空」である。しかし、「空」であるがゆえに、すなわち他のものに依存しているがゆえに、物質的な存在として成立することができるという教説だ（注・色即是空、空即是色）。これは量子力学の概念と一致する。インドの高名な原子物理学者はこう言っていた。『2000年以降も昔のインドで生まれた仏教の經典に量子力学の概念がすでに書かれていた。

「ええ、じつは、たゞ一中間子理論」を構築されたことはよく知られている。このあと、学生から「現在の科学は障害のある胎児の人工妊娠中絶や、植物状態の高齢者の延命を可能にしている。これをどう思うか?」「ロボットがより人間に近付くことに法王は賛成するか?」といった質問が出され、法王は前者には「一般化した答えをすることは難しいが、われわれは結局、脳が機能して生きているのです」、後者には「ロボットが（人と同じような）意識を持つようになるとは思わない。しかし、研究は続けるべきでしょう」などと答えていた。

ピーターさんが
法王作詞曲歌う

A wide-angle photograph of a large lecture hall or auditorium. The seating consists of blue and grey tiered chairs filled with students. The stage at the front has a dark curtain backdrop with a white banner that reads "中国科学院植物研究所植物学大会" (Chinese Academy of Sciences Botany Conference). Several people are standing on the stage, and a small table with items is visible. The ceiling is high with a complex steel truss structure and numerous circular lights.

大教室はダライ・ラマ法王14世の話を聞く学生たちで埋まった

たというこ
を、私たちは著
りに思う』と。

本学津田沼キャンパスで開かれた第49回熱測定討論会（10月31日～11月2日）日本熱測定学会主催、日本化学会・日本薬学会・日本農芸化学会共催）で、生命環境科学専攻の西山枝里さん（修士2年）が、研究成果「トプトーディング方式による冷凍機付断熱型熱量計の開発」をポスター発表。優秀と評価され、日本熱測定学会から「アカ

西山さんはヘリウム用。しかし、ヘリウムは世界的に価格が高騰している。西山さんははヘリウムの代わりに、冷凍機を使つたように部屋は機能的に配置されるのが普通。しかし大塚さんは、SO₂のようになに家に長くどどまる人には窮屈。もっと自由に、と「窓に住む



れ、10月23日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた表彰式で表彰状と賞金20万円を授与された。

今年のテーマは「郊外住宅の新定義」——郊外でマイホームの夢をかなえたものの家族形態が崩れつつある現代に、どんな住宅を提案するか。世帯主の職業がSOHO形態という設定。



大塚さん(上)とその展示作品

緒方教授は「郊外住宅の新定義」——郊外でマイホームの夢をかなえたものの家族形態が崩れつつある現代に、どんな住宅を提案するか。世帯主の職業がSOHO形態という設定。

緒方隆志教授（写真下）が前勤務先・電力中央研究所の同僚2人と共同で発表した論文が、火力原子力発電技術協会（岩谷金啓会長）の論文賞に決定。10月16日、火力原子力発電大会（広島市の広島国際会議場で開催）で

表彰された。
緒方教授は「数年にわたり実験・解析で得られた成果が評価され、光榮です。関係者に感謝したい。国内の原発が停止状態の現在、火力発電所を安定運転する必要性は極めて大きい」とコメントしました。

緒方教授は「数年にわたり実験・解析で得られた成果が評価され、光榮です。関係者に感謝したい。国内の原発が停止状態の現在、火力発電所を安定運転する必要性は極めて大きい」とコメントしました。



会は1950（昭和25）年に「火力発電研究会」として発足。火力原子力発電所の発電技術について設備の改良や保全、材料開発、検査、環境・省エネ対策、規格づくりなどに取り組んでいる。また、協会誌や技術基準書の発刊、火力原子力発電大会の開催などを通じて発電技術の普及に取り組んでいる。

全日本学生建築コンソーシアム'13

「窓に住む家」提案の大塚さん最優秀賞

都市の住まいでは、書斎、寝室、子供部屋といったように窓は機能的に配置されるのが普通。しかし大塚さんは、SO₂のようになに家に長くどどまる人には窮屈。もっと自由に、と「窓に住む

家」を提案した。住まいに個室がなく、代わりに窓に奥行きを与える。ドアを開けると土間が広がり、共用のクローゼットから好きな本を持ち、布団を抱えて階段を上り、無数にある窓の景色や街の雰囲気、自

分の気持ちで居場所を決める。明日は違うマドで仕事をするのかも知れない——。8月に心臓が締め切られ、9月の二次審査を経て10月23日、二次審査と表彰式を兼ねた会場で、

大塚さんは「昨年は一空間構成に定評のある吉田研介氏、赤松佳珠子氏、建築集団「みかんぐみ」のマニュエル・タルディツ氏ら審査員が大変お世話になりました」と喜びを語った。

緒方教授に論文賞

火力発電所の配管溶接部寿命を予測し延ばす研究

火力発電所の配管溶接部寿命を予測し延ばす研究

石炭火力発電ではCO₂排出量を減らすよう、高い発電効率が求められる。国内では、蒸気温度・蒸気圧が極めて高く世界最高水準といわれる超々臨界圧石炭火力発電所を実現しているが、高圧鋼製ボイラ配管の長手溶接部でクリープ損傷（変形や割れ）が起きやすい。

緒方教授らは、損傷が蓄積して、き裂が発生するまでの時間（寿命）を予測する新手法を、実験や解析に基づいて提案。

火災原子力発電技術協

い。提案した寿命評価法の適用を通して、火

力発電所の運用の信頼性確保に寄与していくことを目指す」とコメントしました。

西山さんアカシア賞

断熱型熱量計開発を発表

西山さんは「受賞は工具で試料を冷却する、トータルアシスト賞（ボスター賞）」を授与された（写真）。

師走を彩る

両キャンパスにイルミネーション



せた力作。こちらの点灯時間は午後4時30分から夜8時まで。

iPadでクリスマスデコも

iPad miniのカメラやアプリ機能を利用して、クリスマスにちなんだ物（イルミネーションや教務課前の置物など）を撮影後、写真をデコレーションしてプロジェクターで映すイベントを行っている。

こちらも公募した学生によるもので、写真撮影＆デコレーションしたものを12号館1階のエレベータホールの壁面に投映している（写真）。12月24日まで。

津田沼キャンパスに昨年に続き、巨大なクリスマスツリーが姿を現した。今年はグランドイルミネーションとして、1号館前のグリーンにもミルキーウェーイや惑星などが施され、キャンパス内を一層明るく照らしている（写真・左と上）。

キャンパス外周の生垣もクリスマス色に彩られた。在学生が「CITものづくり」の一環として製作・装飾に携わったもの。これらイルミネーションは毎日午後4時30分から午前0時まで点灯する。

新習志野キャンパスでも、12号館前ロータリーにクリスマスイルミネーションが飾り付けられた（上写真の右下）。学生支援イベントの一つとして、集まった在学生たちがミーティングを重ね、全体の完成イメージを話し合い、モチーフなどを針金で作成して完成さ

れてきた力作。こちらの点灯時間は午後4時30分から夜8時まで。

iPadでクリスマスデコも

こちらも公募した学生によるもので、写真撮影＆デコレーションしたものを12号館1階のエレベータホールの壁面に投映している（写真）。12月24日まで。

本学惑星探査研究センター(PERC)の松井泰典所長が執筆した『スリランカの赤い雨』の刊行を記念するトーキイベンツが11月24日、東京・神田神保町の東京堂ホールで開かれた。松井所長は世界的な天文学者のチャンドラ・ヴィックラマシンゲ博士、脳科学者の草木健一郎氏と「生命が宇宙から飛来する可能性」について語り合った。

生命、宇宙から飛来？

松井所長刊行記念トーキ

ウイックラマシンゲ博士は「生命の起源は宇宙にあり、地球上の原始生命は他の天体から隕石などに付着して到来した」とする「パンスペルミア説」の現在では唯一の主唱者。英バッキンガム大学アストロバイオロジー研究所長を務めており、松井所長と共同で研究を進めている。また、茂木氏は同博士の著書『生命・DNAは宇宙からやつてきた』の監訳者。松井所長の著書のタイトルになつている「スリランカの赤い雨」は、昨年11月から今年1月にかけてスリランカに降った色のついた雨のこと。同じような雨は2001年にもインド南西部ケララ州で観測されており、スリランカ出身のウイックラマシンゲ博士は、こわらの雨から明らかに地球上の生命とは異なる生物



トクイベントで熱く語り合う左から茂木さん、松井所長、ウィックラマシング博士は、これらの雨が降る前に必ず隕石が大気圏に突入する際の衝撃波音が聞かれてること、雨の前後に地上に隕石が落下していることなどから、「赤い雨は宇宙か」とスリランカのケースで

うといって、生命は必ず地球上で生まれたと考えるのは論理的ではない」としたうえで、「バクテリアは宇宙空間に放置されていても、地球上に戻ってきたうえで増殖する能力をもっている。宇宙の生命がその極限の環境下でも生き残るのであれば、バクテリアのようなものがかつて地球外から飛来したと考えることは、確率論からいうと

あればもっているはずのDNAは公式には発見されていないとしたうで、「私を含めた日本研究者とヴィッククラマン博士の研究グループ」は、両方の両のサンプルからDNAを検出して、論文を準備中だ」と大きな研究成果があり、ことを明らかにした。そのうえで松井所長は、パンスペルミア説現代の科学で、その是を



道に説明していく以外に
方法はない」（著書か
ら）としている。

の市民のかかわり／ビデオトープ造成のための物理的構造や棚田の地形・土壤調査／離島のネットワーク分析——などをレベル展示。

関係の出展団体が集まっているゾーンでの出展だったため、興味・関心の高い多くの参加者がゾーンに来場した。

出展の各チームは会場で多くの来場者から質問されたりアドバイスを受け、県内の環境団体と交流した。環境科学研では県庁職員も質問。五明研では、千葉県の河口域への取り組みに賛同の声が寄せられていた。

「ロボットの千葉工大」浸透

2013国際ロボット展 「櫻式號」など出展

「櫻壱號」が初公開された。会場で「櫻壱號」は「原発対応ロボットQuin ce」と同等の段階および不整地走行性能を備え、より小型化を実現した移動ロボット」と紹介された。

■ 標記号を初公開
新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の出展アースに設けられた本学の展示コーナーでは、昨年9月25日に公開して大反響を呼んだ「豊式琥珀」と並んで「豊

11月6日から9日まで東京JIGGサイトで開かれた「2013国際ロボット展」に、本学は未来ロボット技術研究センター（f u R o）が開発した原発対応ロボット「櫻式號」などを出展した。並行して開かれたフォーラムでは未来ロボティクス学科の富山健教授が大学におけるRT（ロボティクス・テクノロジー）教育について、本学での教育成果を紹介しながら新たな提案をして注目を集めた。



来場者の注目を集めた櫻シリーズ

「ロボットによる現場に投入する前の作業員の操縦訓練用に開発したもの。」
本学の展示コーナーには、企業などのロボットを活用して、協力して開発し、自動車の運転練習用として、富山大学の山口教授は9月1日、「コミュニケーション」「ロボティクス」「橋渡し」と題して、場教育を通じた実演を行った。

の手で活動す
稼で紹介し、
喫の声が上つ
と並行して開
災害対応ロボ
ット操縦訓
東(ミニュ
こは、アイシン精
NEDOの出展
で見た!」とい
聞かれ、「ロボツ
葉工大」のイメー
の中に浸透してき
を実感しました
研究員)。

ツト研究者や技術者にな
じつて本学の卒業生もチ
勢訪れ、ロボット界の最
先端をいく母校の研究成果
果に見入っていた。

必要な人材を育成するためには、学生を現場に出し、RT技術を使った活動で社会に役立つことの充実感を体験させることが重要で、このような特徴をもつカリキュラムを

室からの派遣された介護士が排泄の実習を通して、護士が排泄への対応に努めていることを知り、RTの勉強と並行して接觸型排泄検知シートを開発した。在学中にベ

水質、資源 エコメッセ



CITものづくり提案の展示ブース

ののかかわり▽ビニンガ造成のための物理的分析——などを述べる。今回は生物地図環境健全性指標による各地の具体的な

関係の出展団体が集まっているゾーンでの出展だったため、興味・関心の高い多くの参加者がゾーンに来場した。ス

出展の各チームは会場で、多くの来場者から質問されたりアドバイスを受け、県内の環境団体と交流した。環境科学研では県庁職員も質問。五明研では、千葉県の河口域への取り組みに賛同の声が寄せられていた。

建学の精神「世界文化に技術で貢献する」

第5回ホームカミング
デイが11月23日(土)、

ホームカミングデイ

荒井さんが隕石探査講演

津田沼校舎2号館などで開かれた。卒業生に母校へ帰つてもう、旧交を温め、大学の新しい息吹を感じるものうといふ企画。



南極での貴重な体験に魅了される同窓生

好天の中、津田沼祭に合わせての開催で、キャンパスはにぎやかな雰囲気。講演会会場の2号館3階大教室は大勢のO Bでいっぱいになった。開会式に続き、惑星探査研究センター(PER C) 上席研究員・荒井朋子さんが特別講演。荒井さんは昨年末から年明けに米国科学財団などが実

施した南極隕石探査に参加し、その貴重な成果や

体験を披露した。同探査に日本人女性の参加は初

めで、卒業生たちは演壇の荒井さんに注目。

南極の氷河上には自然隕石は存在せず、あるのは

隕石、また酷寒のテント生活など、卒業生たちは学生に戻つて講義を受けるように聴き入り、南極に思いをはせた。

講演会後は会場を学生食堂に移して懇親会。坂本洋会長のあいさつ、宮川常務理事の祝辞に続い

て、小宮学長の音頭で乾杯、歓談に入った。

卒業生の大矢絆里子さ

んがボーカルを務める“

ディドリーム”による歌



▼ 講演前の名刺交換会

▲ 産学懇談会の会場

本学が企業と親睦を深め、学生の就職情報を交換し合う「産学懇談会」(平成25年度)が11月2日、ホテルニューオータ

二幕張で開かれた。採用環境は昨年度よりやや向上いたものの依然厳しい中、懇談会には397社の人事担当者41

2人が出席した。第一部では、小宮一仁学長が本学の歴史や近況について説明し、協力企業にお礼の言葉を述べた。

続いて、ジャーナリストの後藤謙次氏が「アベノミクスと日本政治の方針」と題し講演。△アベノミクスにおける成長戦略として、一つに「規制緩和」があり、日本の経済成長を占う大きなポイ

ントとなる「TPP」「消費税増税」「電力制度」は今後、経済界に大きな影響を及ぼすが、その観点から説明。政治が

今後果たすべき役割を述べた。

第二部では、瀬戸内修理事長があいさつ。参加

企業に対し、日頃の支援を感謝し、「社会が求められる人材の育成に尽力した」と語った。

続いて日本ケミコン株式会社取締役の伊藤孝行氏が「素晴らしい講演を

いた。会場では、各学科ベースに学科長や就職担当教員が待ち受け、企業の担当者たちが、就職の現況や可能性について

1時間半近く懇談。求められる人材像などについて情報交換が行われた。

卒業生を送り続けた。卒業生をとり、懇談会がスタートした。

平成25年度 産学懇談会開く

「トとなる」 TPP」「消費税増税」「電力制度」は今後、経済界に大きな影響を及ぼすが、その観点から説明。政治が

今後果たすべき役割を述べた。

第二部では、先進的な

教育改革への取り組みで定評のある立命館大学教

育開発推進機構の鳥居明子教授が「IRと教育改善の運動による質保証」

IRと教育改善の運動による質保証」を題して講演した。外部の専門家を招いてのこの種の講演会は初めての試み。

I-Rは「International Research」の略で、大学のトップレベルの意思決定を支援するために行われる、実践志向の強い調査分析活動の一大柱として、大学関係者の間で急速に関心が高まっている。

講演で鳥居教授は、「日本ではまだ多くの意見交換の場とするために発展的に見直した。第一部講演・ディスクッションセッションと第2部ポスターセッションの

就職情報、企業と交換

用意され、直接ひざを交えての交流の場を設けていた

だき、大変うれしい。今後も優秀な卒業生を送り続け

てほしい」と乾杯の音頭をとり、懇談会がスタートした。

会場では、各学科ベースに学科長や就職担当教員が待ち受け、企業の担当者たちが、就職の現況や可能性について

1時間半近く懇談。求められる人材像などについて情報交換が行われた。

卒業生を送り続けた。卒業生をとり、懇談会がスタートした。

だ。会場では、各

科ベースに学科長や就職

担当教員が待ち受け、企

業の担当者たちが、就職の現況や可能性について

1時間半近く懇談。求め

られる人材像などについ

て情報交換が行われた。

卒業生を送り続けた。



アメリカ英語研修の旅

第18回夏期アメリカ英語研修は8月3~20日の18日間、シアトルやサンフランシスコで行われた。今年は学生24人が参加、語学研修の傍らシアトル市内やレーニア山、大リーグ戦、ボーリング社などを見て回り、ホームステイでアメリカの家庭生活に触れた。参加した2人が体験記を寄せた。

◀ シアトルパシフィック大学で現地学生と突然のスポーツ交流。左端が藤ヶ崎君

アメリカ英語語学研修に参加しようと思ったのは、大学1、2年の時に英語の授業で案内を見て興味を持ったことがきっかけです。2年生時に参加しようと決意しました。そして今年、今まで私が習ってきた英語を生かしていきたいと思い、参加を決意しました。

アメリカでは、多くのイベントがありました

が、一番印象に残っているのは、ホームステイで

か、非常に不安でした

が、自分の英語が通じる

授業が休みの日は、家

でのんびりして犬2匹と

遊んだり、湖のある公園

に連れて行ってもらいました。そこで気づいたこ

とは、アメリカの湖で

は、ライフガードがいる

いました。でも、日に日本で

いざ現地に着くと、緊張して、思つたほどアメ

ンでした。でも、日に日本で

僕ら色の津田沼祭

1万6000人来場 “千葉工大”を楽しむ



子どもたちに人気の手作り教室。上手にできたかな?



チバニーも加わってお祭りがスタート



おもちのモップルが好評。味の種類も豊富



最高! 模擬店の味

12月生まれの友人を祝う、いわゆるお誕生日会が、恒例女子会の年度の締めくくりとなる。今年は少し早い開催となつたのだが、例によつて大爆笑の熱い夜をすごした。

女子会の良さは、男性に気兼ねする心はない、



美味しいものを食べて、たくさん話してストレス解消! と、素敵な要素に満ち溢れている。とはいえば、最近は話の内容が「良い病院、保険の見直し、年金への不安、介護など」満ち溢れる希望もあつたものではない。

今回、流行語大賞「えじえじえ」「倍返し」、「今でしょ!」「お・も・て・な・し」の話題が持ち上がり、その分析た

トリートでは、手作りのカイロケースやアクセサリー、プラバンブローチなど、オリジナル商品が人気を呼んだ。また、モップルやオニオングラタンスープなどのカフェメニュー、農産物の小ぶりなパッケージが来場者らの足をとめた。

チバニーは出店を回す」と振り返った。

美味しさの話を聞いて、実際に憧れの芸能人について思い出しただけで腹筋が痛くなるようなこんな

秋恒例の「第64回津田沼祭(大学祭)」が11月22~24日(金・祝日)の3日間、津田沼キャンパスで開催され

た。

今年のテーマは

「Colorful~僕らの個性~色のキャンパス」。

学生一人一人

の個性「色を引き出

し、大学祭を色鮮やかにしようという願い。

22日前半、濱田健太実行委員長(金融・経営リスク科学科4年)

が開会宣言。マスク

が付いていた。

6号館を中心に各クラ

ブ、サークルが活動成績

を発表。音楽系サークル

は室内ライブ、鉄道俱楽

部はでんしゃまつり、芸

術系クラブは作品展を開

いた。ロボットコンテストや、気軽に参加できる

ストライキングゲーム、

チビっこ手作り教室も開

催。広場では、よさこいソーラン盆神が華麗な舞

を繰り広げた。

23日のメインは毎年好

評「お笑いライブ」。キン

グオブコメディ、弾丸

豚汁、モツ煮などが好

評。

デザイン科学科の9研

究室が並んだデザイン

の足をとめた。

チバニーは出店を回す」と振り返った。



濱田実行委員長

CITものづくり理科教室(江口逸美リーダー)、機械サイエンス学科3年(7人)は11月に、環境エネルギー機器の性能を競う「第6回風力発電コンペ wincom201

3」(3日・日本大学生

産工学部で開催)同学部主催)に出展。また、「環

境シンポジウム2013

千葉会議「ポスターセッ

ション部門(17日、船橋市)の東部公民館で開催)に参

加した。

■風力発電コンペ

3年前から参加。発電量部門で「今年こそは」

と臨んだ」写真。

出展した風車は△オフ

ンダ型(生命環境学科3

年・宮内理加、佐藤俊輔、機械サイエンス学科

3年・貝森瑛美作)▽ジャ

イロミル型(生命環境学

科3年・長島里佐子、機

里中舞斗、電気電子情報

工学科2年・伊藤彰作)

下旬に完成。今年は

特にジャイロミル型

の水平軸の羽根を実

現しようと、バスコ

紙(特殊厚紙)を外

注。硬い厚紙だが

水に浸すと軟化し、

形を定めて乾かす

と、形を保ったま

ま元の硬さに戻る。

メンバたちほど、羽根の表面を粗くし

たら乱流になり起動

ト「チバニー」も参加し、祭りがスタートした。

6号館を中心に各クラ

ブ、サークルが活動成績

を発表。音楽系サークル

は室内ライブ、鉄道俱楽

部はでんしゃまつり、芸

術系クラブは作品展を開

いた。ロボットコンテストや、気軽に参加できる

ストライキングゲーム、

チビっこ手作り教室も開

催。広場では、よさこいソーラン盆神が華麗な舞

を繰り広げた。

登場。心に響く歌声で来

場者を魅了した。

3日間を通じて、スタ

ンフラリー、麻雀名人戦

で来場者らと交流。ミニ

電車の無料乗車が子どもたちを喜ばせた。模擬店では、定番のお好み焼き、豚汁、やきそば、うどん、

など、実行委員らとともにお祭りを盛り上げた。

津田沼祭を訪れた来場者は3日間で延べ1万6000人。思い思

いに千葉工業大学を楽しんだ。濱田実行委員長は

「例年以上に多数の団体

が出展・展示し、津田沼祭を活性化してくれた。

天候に恵まれ、来場者も増えて、うれしい。開催に携わった方々に感謝します」と振り返った。

12月に入り、一段と寒さが増してきた。

こんな時期はコタツでのんびり過ごすのもいい

が、私は密かに楽しみにしていました。

それが印象になります。

今、日本の主な発電は火力や原子力ですが、地震

大国だからこそ風力を広げることが大切なのでは

ないか」と語った。

■環境シンポジウム

昨年度、エネルギー利

用で高い評価を得、今年

度もポスターセッション

トルクが得られやすくなれるか? など、自ら考え改

良を続けた。

その結果、出力数は過

去最高(2~7.5W/秒で

平均出力1,000W以上)を記録。しかし、

今回コンペは大学院生や

特許取得済みの出展な

ど、予想以上にレベルが

高ぐ、理科教室は入賞を逃した。

実行委員の江口さんは

「実行委の方たちと、将

のんびり過ごすのもいい

が、私は密かに楽しみにしていました。

それが印象になります。

今、日本の主な発電は火

力や原子力ですが、地震

大国だからこそ風力を広

げることが大切なのでは

ないか」と語った。

■環境シンポジウム

昨年度、エネルギー利

用で高い評価を得、今年

度もポスターセッション

トルクが得られやすくなれるか? など、自ら考え改

良を続けた。

その結果、出力数は過

去最高(2~7.5W/秒で

平均出力1,000W以上)を記録。しかし、

今回コンペは大学院生や

特許取得済みの出展な

ど、予想以上にレベルが

高ぐ、理科教室は入賞を

逃した。

実行委員の江口さんは

「実行委の方たちと、将

のんびり過ごすのもいい

が、私は密かに楽しみ

にしていました。

それが印象になります。

今、日本の主な発電は火

力や原子力ですが、地震

大国だからこそ風力を広

げることが大切なのでは

ないか」と語った。

■環境シンポジウム

昨年度、エネルギー利

用で高い評価を得、今年

度もポスターセッション

トルクが得られやすくなれるか? など、自ら考え改

良を続けた。

その結果、